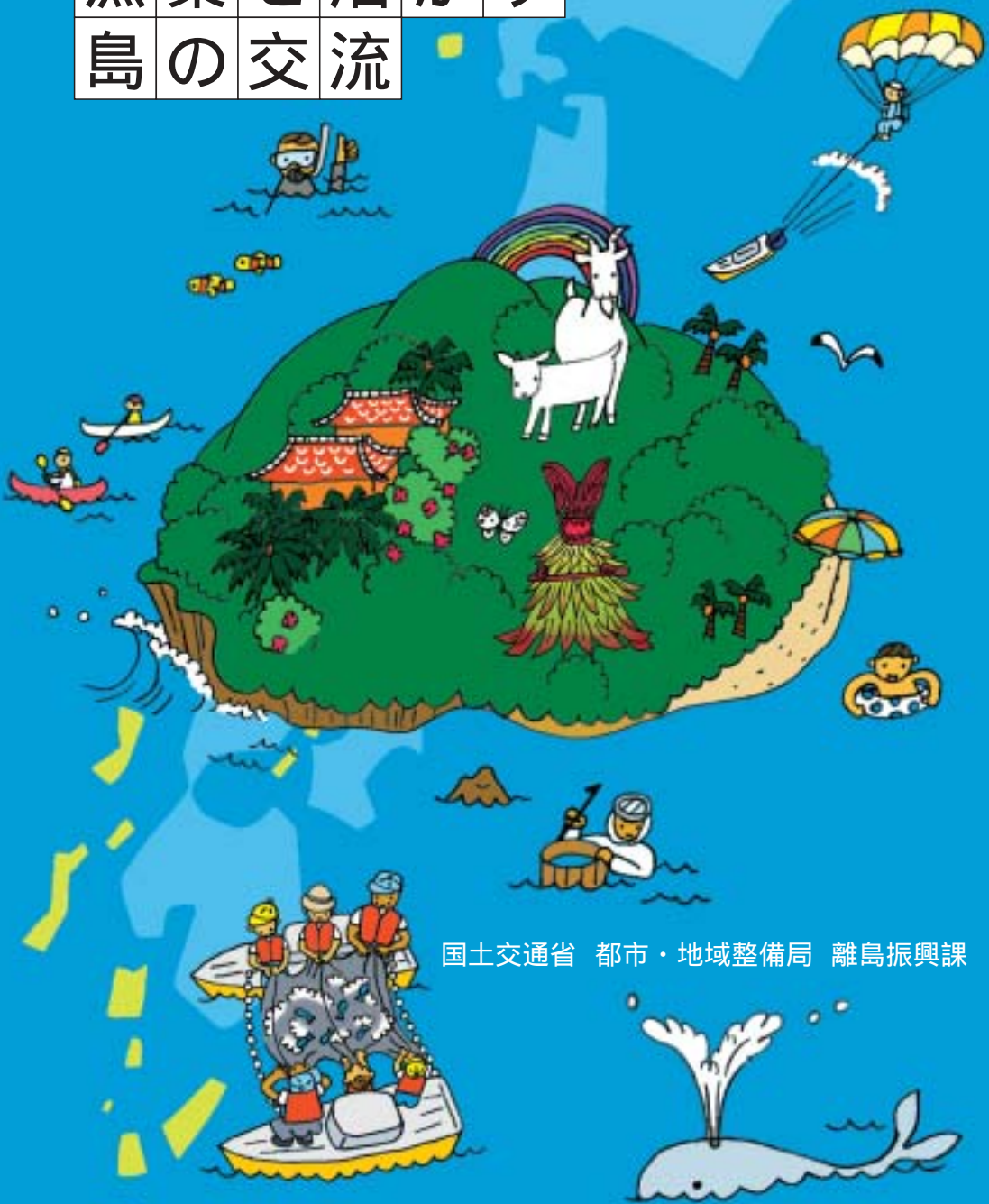


漁	業	を	活	か	す
島	の	交	流		



国土交通省 都市・地域整備局 離島振興課



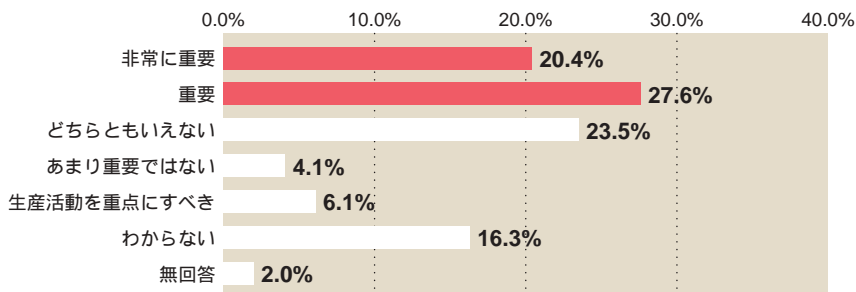
「島で生きていこう！」

島の暮らしはたいへんですが、魅力もたくさんあります。島の伝統、文化、自然を見直し、積極的に情報発信し、多くの人々と交流してはどうでしょうか。特に、四方を海に囲まれ、豊かな漁場にめぐまれていることは、他の地域にない大きな魅力であると考えられます。

次ページのアンケート結果のように漁業を活用した交流に取り組んでいる島は少なくありません。

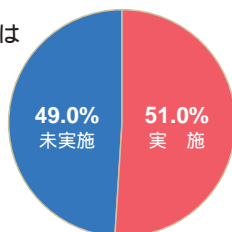
(出典：離島振興課調べ。全国98漁協の回答による)

多くの地区で、漁業を活用した交流事業の重要性を高く位置づけています。



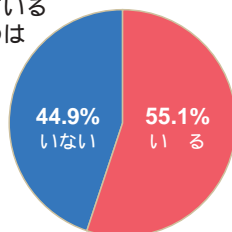
漁獲物を活かす直販や民宿経営は約 50 組合で取り組まれています。

・直売活動を行っているのは約50組合



直売活動

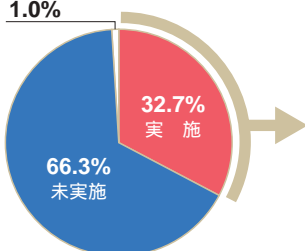
・民宿を兼業している組合員がいるのは約50組合



民宿兼業組合員の有無

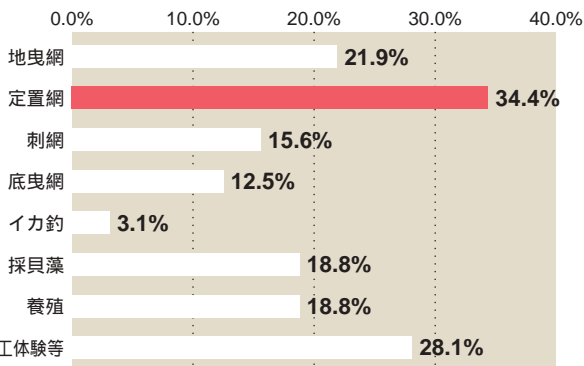
近年、修学旅行との連携等で注目されている体験学習についても定置網の活用を中心に約 30 組合で取り組まれています。

1.0%



体験漁業実施状況

タコつぼ漁、一本釣、加工体験等



活動の取り組み方

「交流をどの様に進めていくのか」

島には、豊かな漁場があり、経験豊かな漁業者も数多くいらっしゃいます。こうした島の漁業を活かした交流が多くの地区ではじめられています。

交流に取り組んでいくためには、①地域的な推進組織、②現場の推進主体となる実働グループ、③情報の窓口といった役割を持つ運営組織が必要です。一方、活動の中心となるリーダーの役割を持つ人は、活動の理想や将来像を持ち、人材の確保・コーディネート、収支、活動メニューの作成、集客など多くのことを考えていく必要があります。

ここでは「交流へのおもい」、「活動の推進力」、「人材探し」、「資源の発掘」について、事例を紹介します。

交流へのおもい

「お釣りをもらう観光」

長崎勝本磯あそび
体験（大久保さん）



若い頃、漁業で全国

の津々浦々をまわってきました。そのときそれぞれの地域から受けた親切をこの活動でお返ししていきたいです。気持ちを込めた体験メニューを提供し、お金をいただく以上のおもてなしを心がけて、お客様にも「もう一度行ってみたい」、「知り合いにも紹介したい」と思っていただけのように、お互いにお金では計れない気持ち（お釣り）のやりとりが生まれる「お釣りをもらう観光」として取り組んでいきたいです。

「漁業資源を守る」

沖縄石垣サバニクルーズ（仲田さん）

沖縄に伝わるサバニ（小型漁船）による漁業は最近、資源の減少に直面しています。漁を休んで体験漁業を行うことにより、海を休ませることができると考えています。多くの方に漁業を理解していただきながら、同時に資源を守るという考え方です。

今後は「海人学校」にまで展開していきたいです。



活動の推進力

「リーダーの役割」

宮城気仙沼大島自然のまなび舎「島の学校」(白幡さん)

これまでの活動を通じて、成功するには、リーダーが独走する場面が必要だと感じています。一般的な合意形成をしながら進めるという手法では、なかなか前に進めないところがあると痛感しました。

「活動の地域への拡げ方」

島根隠岐島後隠岐の島町武良総合振興計画(岡田さん)

高齢化が非常に進み、若い人のいない地区で、現状を改善していき、地区を元気にしていくために、小さな規模のコミュニティビジネスに注目しています。コミュニティビジネスと地域通貨の連携がこの地区には効果的と考えています。



「活動組織の役割」

日間賀島観光協会(鈴木さん)

漁業の低迷やバブル崩壊後の観光業の低迷もあり、地元の若手漁業者で「日間賀アイランドプロジェクト」を立ち上げ、島おこしを考えました。漁村宿泊体験活動を中心に本格的に動きだし、現在では、「日間賀島観光協会」が中心となり、体験プログラムの編成等企画運営や集客等を、漁業者、民宿・旅館民間事業者といった多数の人の協力を得て行っています。



活動を担う人材を探し、活用する

活動の推進には、① プランナー・コーディネーター、② インストラクター（現場の指導者）、③ 地域内の活動支援者、④ 地元出身者やリピーター、取り組みに関心を持つ学生などの地域外の支援者が必要です。

特に、魅力のあるインストラクターに力を発揮してもらうことが活動の成功につながります。地区内のお年寄りなどにも意外な特技を持つ方がたくさんいらっしゃいますので、周囲を見渡してみましょう。

「八丈産おさかな研究会」

東京八丈島（漁協女性部）

八丈島では、学校給食、宿泊事業者への地元の水産物の消費が少ないことがわかりました。そこで、漁協女性部では、未・低利用水産物の加工をはじめ、学校給食や老人ホームへ加工品を納入しています。一般の方への直売も試みています。

八丈島「おさかな研究会」の概要

- 目的** 八丈島水産物の特産品開発と地産地消推進
- 会員** 八丈島漁協連合女性部有志 9名
- 施設** 加工場（約10㎡）、ミートチョッパー、冷凍ストッカーなど（自己資金）
- 活動** 週2回。ムロアジ、サワラ、ナメモンガラ等の1次加工。給食への納入等。
- 今後の事業計画** 食堂経営、島内外への販路開拓



「商品開発研修生」

島根隠岐島前海士町（青山さん）

島の水産物を活用した「さざえカレー」の商品開発を行う中で、平成10年から商品開発研修生の募集を開始しました。今も継続しており、多い年では50名もの島外者がエントリーしたこともあります。島では外からの情報はこちらから求めなければ手に入りません。こうした取り組みのおかげで様々な情報が入ってきており、出来た商品も好評を博しております。

交流メニュー開発と資源の発掘

交流メニューの開発では、①地域の中での体験活動の位置づけ、②地域資源の把握と利用可能性の検討、③都市サイドのニーズの把握・分析、④体験メニューの開発、⑤運営体制と条件整備の検討などの手順を踏まえていきます。

地元では、あたりまえで面白くないと思われることでも、外の人に興味・関心を持つことはたくさんあります。自信を持って地域の資源を発掘しましょう。

また、活動の中心となる場を整備するときや、人材を募集するときには行政の支援が有効です。

行政の支援の例



島根隠岐島後知夫：「活性化推進に関する条例」

村外からの定住を促進する「活性化推進に関する条例」の制定。500万円を限度として漁船または和牛の貸し付けを実施。住宅の斡旋等も実施。

鹿児島三島：「漁業体験船みしま」

都市部の子どもに漁業体験、海洋体験をさせる目的で漁業体験船を国庫補助で建造。船長も鹿児島市内の方を公募。



「活動事例」

島で可能な漁業を活用した体験活動の種類は、大きくは① 漁業体験、② 加工体験・食文化体験、③ 伝統文化体験、④ 自然観察体験（エコツーリズム）、⑤ 海洋レクリエーション・マリンスポーツが挙げられます。

これらの活動には経費が伴い、料金を徴収しなければなりません。島の場合、交通費の負担が本土で実施するときより大きくなります。そのため、ボランティアの活用、島内の民家等今ある施設の活用等により活動に関わる経費を節減する等、様々な努力が必要です。

ここでは、現在、交流が上手く進んでいる事例を紹介します。

おおしま

大島（宮城県気仙沼市）

島の体験館を核とした地域住民による体験活動

どんな島？



宮城県北東部の気仙沼湾内に位置し、東北最大の有人離島です。島の海岸線は屈曲が著しく、北部には海拔235mの亀山がそびえています。気仙沼港の観光桟橋から定期船で約30分の所要時間です。旅客船は1日16便、カーフェリーが1日11便（通常期）就航しています。

どんな活動？

「島の学校」は、平成11年から修学旅行生の受入れを始めたことを契機に活動を開始しました。現在では、「島の体験館」を中核とし、地域住民がインストラクターとなって豊富な体験メニューを提供しています。コーディネーターが積極的に活動し、修学旅行生を中心に積極的に誘致活動を行っています。

体験メニューは大島の特長を生かしたものとなっており、人気の高いアウトドアメニューに加え、荒天時にも対応可能なインドアメニューも提供しています。これらのメニューは「レジャー・アウトドア体験」、「おいしい体験」、「学べる体験」、「海の生活体験」の4区分22メニューに及びます。島の住民がインストラクターとしてそれらのメニューを提供し、副収入を得る仕組みが構築されています。

インストラクターの中心は、30代の1ターンで元研究者の方です。専門的な知識を持ったインストラクターが広範な環境教育を行っているために、特長ある体験メニューが提供されています。

自然の学舎 気仙沼大島「島の学校」体験メニュー

レジャー・アウトドア体験	
無人島体験	無人島でのアドベンチャー体験
大島外洋遊覧	ガイド付きの外洋遊覧
磯釣り体験	磯からの釣り体験
船釣り体験	漁船による釣り体験
キャンプ野外炊飯体験	野外炊飯の体験
大島巡りサイクリング	大島を自転車で一一周
おいしい体験	
ユズ入りアイスクリーム作り体験	大島産のユズを原材料としたアイスクリーム作り体験
ユズ入りトコロテン作り体験	大島産のユズ、天草を原材料としたトコロテン作り体験
さんま薫製作り体験	さんまの薫製作り体験。2尾持ち帰り
いが塩辛作り体験	塩辛はお土産として持ち帰ることができる
学べる体験	
植物プランクトンの観察体験	プランクトンの専門知識を使ったインストラクターが顕微鏡を使って説明する
ホヤの生態観察体験	三陸の生き物ホヤの不思議な生態を解剖などで学ぶ
海藻紙づくり体験	牛乳パックを再利用した環境にやさしい、あなただけの海藻入りハガキが作れる
海藻おしぼりづくり体験	海藻をハガキ、しおり等におしぼる
磯辺の観察体験	磯辺の潮溜まり生物観察
塩づくり体験	海水から塩をつくる体験
十八鳴浜自然観察体験	きゅつ、きゅつと鳴く砂を観察
海の生活体験	
地引網体験	獲れた魚はその場でも食べられる
ワカメ刈り体験	漁船でワカメ筏に行き刈り取りを行う
コンブ塩蔵体験	コンブの塩蔵行程を体験。できた物はお土産に
養殖いかだ観察体験	ホヤ、カキ、ホタテの養殖いかだを観察
元マグロ船漁師の体験談	遠洋漁船の元乗組員に様々な話を聞く

ひまかしま 日間賀島（愛知県南知多町）

観光業と連携した水産物の島内消費の拡大

どんな島？

日間賀島は愛知県三河湾湾口に浮かぶ島です。島の総面積は0.77km²、海岸の総延長は5.5kmで、島の地形は平地となだらかな丘陵からなっており、最高地点の海拔は約30mです。日間賀島には新井浜海塚が残されており、古くから人が住んでいた島です。

島には知多半島の河和港及び師崎港、渥美半島の伊良湖港からそれぞれ高速船が運航されています。所要時間は師崎港から10分、河和港から20分、伊良湖港から30分で、高速船は1日に11便運航されています。



どんな活動？

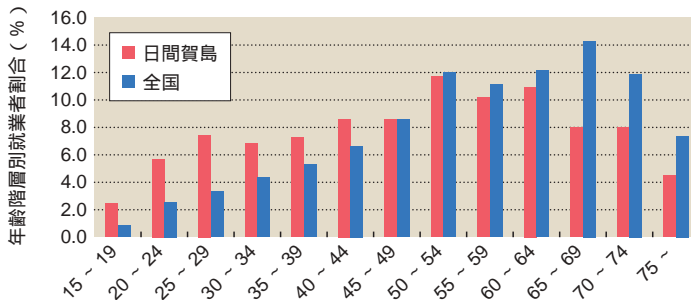
漁業者と観光業者が連携した体験漁業のプログラムが島の観光の大きな目玉になっています。当初、個々の漁家民宿でタコツボや建網などの体験をさせるところが現れ、リピーターが多く好評を博していましたが、観光協会を中心に、本格的な活動とし、島全体で体験漁業に取り組むようになりました。

こうした活動の成果として、地元の水産物の民宿を通じた消費拡大や漁業後継者の確保につながっています。

日間賀島の体験漁業のメニュー

体験メニュー	所要時間	実施人数	料 金	追加料金等
タコつかみどり	30～60分	20人～	30,000円～(20人)	1,000円/人
地引網漁業	約60分	20人～	30,000円～(20人)	1,000円/人
底曳網漁業	約120分	10人迄	18,000円/隻	2,000円/人
キス刺網漁業	約90分	8人迄	12,000円/隻	1,500円/人
干物づくり	約60分	15人～	1,000円/人	原則として持ち帰り
オリエンテーリング	約120分	-	無料	スタンプラリー
レンタサイクル	60分	-	300円/台	30台のみ
イカダ遊び	約60分	-	2,000円/台	東西各5艇のみ
お寺で聞く法話民話	約60分	-	寸志(5,000円程)	
浜清掃	約60分	-	無料	島内美化に協力
釣りと遊覧	約90分	10人迄	12,000円/隻	
堤防釣り(貸し竿)	約3時間	-	600円/人	予約人数料金必要
タコカレーづくり	約120分	20人～	800円/人	
バーベキュー	約60～120分	2人～	2,000円/人	
漁船クルージング	約30分	8人迄	10,000円/隻	1,200円/人

活動の成果もあって、多くの漁業後継者が地区に残っています。



日間賀島の年齢階層別漁業就業者数と全国の比較

中ノ島（島根県海士町）

都市からの戦略的な人材の受け入れ

どんな島？

山陰地方島根半島の沖合約65kmの日本海に浮かぶ隠岐諸島は4つの有人島、大小180余りの無人島から構成される群島型離島です。本土側から見て手前にある西ノ島、中ノ島、知夫里島の3島をあわせて島前（どうぜん）と呼び、後方にある1島を島後（どうご）と呼んでいます。海士町は島前3島のうち中ノ島を占め、1つの島で1つの町を形成しています。海士町の面積は32.31km²で、そのうち山林が20.71km²（約62%）、水田・畑地は3.97km²（約12%）、可住地面積4.74km²（約14%）となっています。

本土からのアクセスは、境港（鳥取県）、七類（島根県）、加賀（島根県）の各港から海士町・菱浦港まで、フェリー及び高速船の定期航路が就航し、それぞれフェリーでは片道195分、高速船では109分程度の時間距離となっています。



どんな活動？

海士町では町役場の主導により、「モノづくりから町おこし」をキーワードとし、戦略的な様々な活動を展開してきました。水産関係では、「サザエカレー」といった加工品事業への展開を行っており、最近では付加価値の高い新しい冷凍技術を導入した施設を作り全国的に注目されています。島に必要な人材を戦略的に継続して獲得しています。



商品開発研修生

島を活性化していくための中核を担う「商品開発研修生」は、島の名物「サザエカレー」の開発にあわせ平成10年から募集を始めました。研修生は、原則1年契約で、担当した仕事の状況によって本人の希望があれば適用期間を延長していく形を採っています。中には4年間在籍し、島に住んでいた人もいます。一次選考として書類選考を行い、それをクリアした人には、実際に島に来て見てもらい、島で何がしたいかといったテーマで自己PR（面接）を行う二次選考を経て採用しています。応募は北海道から東京まで全国各地からあります。



商品開発研修生の募集要項「島で宝探し」

目的 商品開発の研修生には、海士町を舞台に特産品あるいは、観光商品に至るまですべてを素材にした商品の開発を手がけていただき、地元にはない発想を提案していただくことを目的に受け入れます。研修生と言いながらどちらかと言えば「求む！島の助っ人」といった感じ。また海士町の町づくりに必要である人材として求めようと考えています。

今からの海士町に必要な人材 芸術・美術関係 / 環境関連 / 営業関係 / 製造関係 / 観光関係 / 食品関係 / 食品分析経験者 / 情報関連 / 映像関係 / イベント関係 / 語学関係 / 園芸関係

種子島（鹿児島県西之表市、中種子町、南種子町）

サーファーの定住とIターン漁師の誕生

種子島は、鹿児島市の南方 115 km にある面積が 445.52 km² の島です。本土との間には高速船、フェリー及び飛行機が就航しています。



Iターン漁師とは？

種子島のサーフィン

種子島では、20 年ほど前からサーフィンが行われる様になり、ここ 4 ~ 5 年で島を訪れるサーファーが急速に増えています。最近、サーフィン雑誌が行ったアンケートで日本の一番行きたいサーフポイント No.1 になりました。島を訪れるサーファーの数は、年間 1 万人程度ともいわれています。

サーファーの定住

種子島にサーフィンに来たサーファーの中から種子島の魅力に取り付かれて島に定住する人たちが 10 年頃前からみられるようになりました。その後、島に I ターンしたサーファーは着実に増え、現在では、300 名を超える人が定住しているといわれています。

I ターン者の年齢は 10 歳台後半から 50 歳ぐらいまで幅が広く、最近では医師免許をもつ人などもみられます。

サーファーで漁業者？

サーフィンを目的としてやってきた I ターンの中から、漁協職員、トビウオ漁従事者、定置網乗組員など漁業関係の職業に従事する人がでてきています。



中種子支所の定置網に従事する I ターンサーファーたち

定置網の乗組員出身地など

	出身地	兼業	家族
A	静岡	潜水士、民宿	子供 3 人
B	東京	フリーカメラマン	子供 2 人
C	愛知	サーフショップ	
D	滋賀	塗装業、監視員	
E	東京	サーフショップ	
F	東京	塗装業自営	
G	愛知	内装職人	

下甕島（鹿児島県薩摩川内市）

里親制度による都市小学生の受け入れ

下甕島は、鹿児島県薩摩半島の西方海上約30kmに位置しています。本土側の串木野港と航路で結ばれています。



どんな活動？

下甕島の鹿島地区は僅かばかりの平地に集落が形成され、伝統的に漁業を中心とする純漁村です。産地価格の低迷から漁業の産業としても基盤が弱体化し、人口の流出と高齢化が進んでいます。このため、地区内にある小中学校の在籍者数は減少の一途を辿り、漁村から元気な子供の声が消えていきました。旧鹿島村（現在は薩摩川内市）では平成8年からこうした事態を打開するため、地区住民が里親となり都市の小学生を受け入れる「ウミネコ留学」制度を発足させました。都市の子供達を1年間鹿島町の里親が預かり、地元の小学校に通学する制度です。この9年間に鹿島地区に留学した生徒数は119名に及んでいます。子供たちは離島の自然と社会に学び、たくましく育っていくとともに、地域の子供から老人に至るまでの幅広い層との交流によって地域に明るさと活力がよみがえっています。

鹿島小学校の主な行事

	主な行事
4月	入学式
	ウミネコ祭り
	こいのぼり集会
5月	ウミネコの餌付け（西海岸）
	いも苗植え
6月	宿泊学習（川内少年自然の家）
7月	マダイの放流（花瀬海岸）
	海岸清掃・海で遊ぼう（花瀬海岸）
	東郷町との交流
9月	相撲大会
	村長寿を祝う会
10月	秋の一日遠足（中甕、里）
11月	いもほり
12月	持久走大会
	しめ縄作り（老人クラブとの交流）
1月	鬼火焚き（こども会）
	定置網体験
2月	学習発表会
3月	お別れ遠足（花瀬海岸）



鹿島小学校の授業風景



お問い合わせ

国土交通省 都市・地域整備局 離島振興課
〒100-8918 東京都千代田区霞ヶ関 2-1-3
TEL : 03-5253-8111

財団法人 漁港漁場漁村技術研究所
〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-14-10
TEL : 03-5259-1021